



学校法人 兵庫医科大学

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解

西宮キャンパス

兵庫医科大学(医学部)
兵庫医科大学病院
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
☎0798-45-6111(代)
<https://www.hyo-med.ac.jp/>(大学)
<https://www.hosp.hyo-med.ac.jp/>(病院)

神戸キャンパス

兵庫医科大学(薬学部・看護学部・リハビリテーション学部)
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
☎078-304-3000(代)
<https://www.hyo-med.ac.jp/>

篠山キャンパス

兵庫医科大学
ささやま医療センター
〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡5番地
☎079-552-1181(代)
<https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/>

兵庫医科大学
ささやま老人保健施設

兵庫医科大学
ささやま居宅サービスセンター
〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡36番地
☎079-552-6840(代)
<https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/>

梅田キャンパス

兵庫医科大学
梅田健康医学クリニック
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-13-1 大阪梅田ツインタワーズ・サウス13F
☎0120-682-701(代)
<https://umeda-kenshin-clinic.jp/>

< 広報誌の送付先変更や配送停止に関するお問合せ >

【兵庫医科大学 医学部 卒業生(緑樹会会員)の方】
兵庫医科大学 医学部 同窓会緑樹会
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
兵庫医科大学 西宮キャンパス 教育研究棟 3階
☎0798-45-6448 (平日13:00～17:00)
✉ryokuju@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 医学部 在学生保護者の方】
兵庫医科大学 大学事務部 西宮教学課
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
兵庫医科大学 西宮キャンパス 教育研究棟 2階
☎0798-45-6159 (平日8:30～16:45)
✉kyo-gaku@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 薬学部・看護学部・
リハビリテーション学部 卒業生(海泉会会員)の方】
兵庫医科大学 同窓会 海泉会事務局
(キャリアデザインセンター)
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
兵庫医科大学 神戸キャンパス M棟 1階
☎078-304-3100
✉kaikyoukai@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 薬学部・看護学部・
リハビリテーション学部 在学生保護者の方】
兵庫医科大学 大学事務部 学生支援課
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
兵庫医科大学 神戸キャンパス P棟 1階
☎078-304-3007 (平日8:30～17:00)
✉gakuseishien@ml.hyo-med.ac.jp

【その他の方】
学校法人 兵庫医科大学 総務部 広報課
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
☎0798-45-6655
✉kouhou@hyo-med.ac.jp

学校法人 兵庫医科大学 広報誌
兵医広報 vol.267 (2024 AUTUMN)
発行日／2024年10月16日
発行元／学校法人兵庫医科大学 総務部 広報課

学校法人 兵庫医科大学 広報誌

EMPOWER THE PEOPLE

心に響く医を、私たちがいるかぎり

兵 医 広 報

2024
AUTUMN
vol.267

兵庫医科大学から始まる

医療人の
キャリアパス

兵庫医科大学から始まる

医療人のキャリアパス

先輩たちが医療人を目指したきっかけから
どのように仕事に取り組んできたかまで、5人のキャリアパスを紹介します。

Research
doctor

研究医

江川 可純

Ekawa Kazumi

兵庫医科大学 医学部
社会医学予防医学部門 助教
(兵庫医科大学 2020年卒)

INTERVIEW.1

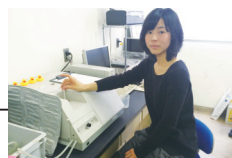
研究を通して

医療の未来に貢献

TIMELINE

2016年

基礎研究という分野の
存在を知る



2020年

臨床実習と卒業後の初期臨床実習が
きっかけで予防医学研究の道へ



2018年

集中して研究に打ち込める、
研究医コースを選択



2024年

未来の患者さんに
より良い医療を届けられる研究に邁進中

TURNING
POINT

2016年

研究医を目指したきっかけ

第2学年次に実施される『基礎系講座配属実習』で現在所属している講座に配属され、基礎医学研究に触れたことがきっかけです。それまでは漠然と、将来は内科で患者さんを直接診察する仕事に就くだろうと思っていましたし、それ以外のイメージが湧いていませんでした。基礎研究という分野の存在を知り、それに従事する先生方から少人数で指導してもらうこの実習がなければ、今の仕事には就いていなかったかもしれません。

2018年

研究医コースを選択

他の学生との交流が励みになりました

研究医コースでは在学中に研究に専念できる環境づくりはもちろん、医学生としてはとても大事な進級、卒業、そして医師国家試験に対するサポートも充実しています。なにより私にとって良かったのは、研究医コースで別の研究室に配属となった同級生と研究の話ができたことでした。同じ学生という立場でお互い始めたての研究の話ができて、刺激になると同時に大変励みになったものでした。毎年研究医コースに所属する学生が多数おり、交流会にも参加させていただきましたが、学年の垣根を越えて切磋琢磨されている様子に一卒業生として大変嬉しく思いました。今後も研究医コースがますます発展し、卒業生の中から新たな研究医が誕生することを楽しみにしています。

研究医コースについては
ホームページをご確認ください ▶



2020年

臨床での貴重な経験が
予防医学研究に進むきっかけに

在学中から研究医コースに所属し、血栓症の予防をテーマにした基礎研究に従事してきました。臨床実習および卒業後の初期臨床研修で高血圧や糖尿病などのいわゆる生活習慣病を長く患い、それを起因とする併存疾患を多数かかえている患者さんの診察を通じて、元々興味があった予防医学研究にさらに力を入れたいと思うようになりました。実際の臨床の現場で患者さんと接することで多くの貴重な体験ができたことが現在、取り組んでいる研究につながっています。

2024年～

研究の先に患者さんがいることを
意識しています

医師としても研究医としてもまだまだ駆け出しでわからないことも多いですが、先人に指導を仰ぎ貪欲に知識を求め、日々精進していきたいです。また、医療人として自分が取り組んでいる研究の先に必ず患者さんがいることは常に意識しています。臨床の現場で目の前の患者さんに質のいい医療を提供するだけでなく、研究を通して未来の患者さんにより良い医療を届けられるよう、今後も邁進していきます。



私にとっての兵庫医科大学とは

現在のキャリアである研究医になるきっかけを与えてくれました。医師になるために必要な講義や実習だけでなく、親身になって勉強や研究の悩み、不安を聞いてくださる先生方には大変お世話になりました。附属病院には多くの先輩方がおり、温かい叱咤激励もいただきました。今後の本学の発展に貢献していきたいと思っています。

医師・研究医を目指す人へメッセージ

医療は臨床・研究に関わらず医師のみで行えるものではなく、様々な医療スタッフと連携して患者さんにとってベストの治療を提供することが重要です。勉強はもちろん必要不可欠ですが、それ以外の人生経験がより良い治療や発見につながることもあります。ぜひ多くのことを学び、将来に生かしてください。

Pharmacist

薬剤師

梁川 稔規

Yanagawa Toshinori

兵庫医科大学病院 薬剤部
(兵庫医療大学※ 2017年卒業)
※現：兵庫医科大学

INTERVIEW.2

患者さんの心に寄り添い
信頼される仕事をしたい

TIMELINE

2005年

祖父に病気が見つかり、
薬の開発などに興味を持つ

2017年

大学卒業後、
兵庫医科大学病院へ入職

2020年

がんセンター薬剤調整室に
配属になる

TURNING
POINT

2009年

サッカー部の主将として、
意見をまとめたり、
人の心情や行動を読み取る力を身につける



2024年

がん薬物療法の
スペシャリストを目指す

2005年

薬剤師を目指したきっかけ

私が中学生の頃、母方の祖父が膵臓がんで亡くなったことがきっかけです。がんが見つかったから亡くなるまでが早かったのですが、その時の祖父本人や母たちの様子を見て、がんに対する治療薬の開発や患者さんとそのご家族に対して薬剤師として何か手助けできるようになりたい、と思ったことが薬剤師を目指した決め手となりました。

2020年

がんセンターへ念願の配属
目標を周りに伝えて
キャリア形成をスタート

TURNING
POINT

薬学部を卒業後、兵庫医科大学病院に入職しました。自身の希望通りにがんセンターに配属されるかは分からなかったのですが、薬剤師として働き始めて3年目に希望していたがんセンター薬剤調整室の配属になりました。その後は私が薬剤師として「がん治療のスペシャリスト」を目指していることを周りにも伝え、今のキャリアがスタートしました。上司や先輩方など、周りのサポートのおかげで今があると思っています。また、小学生の頃からサッカーをしていたのですが、高校2年生で主将になり、様々な経験をしたことも、多職種が連携して仕事に取り組む今に役立っていると感じます。何十人という部員の様々な意見をまとめる上で思考をめぐらせることや他人の行動・心情を読み取る能力はこの頃に身についたと思っています。

2024年

専門性を高めるために資格を取得
周りからの信頼も厚い薬剤師を目指して

2020年から現在まで、がんセンター薬剤調整室でがん治療に携わっています。配属後、がん医療における病院薬剤師と薬局薬剤師の「連携充実加算」導入、医師・看護師と協議し皮膚障害対策マニュアルの作成、がん薬物治療の安全性と質の向上、医師の業務負担軽減などを目的としたPBPM※の導入など新規導入業務の標準化やチーム医療の一員として副作用対策マニュアルの作成など、様々な仕事に従事してきました。今後は、さらに専門性を深めていく上で、がん専門／指導薬剤師の資格を取得し、がん薬物療法のスペシャリストとしてキャリアを形成していきたいと考えています。そして、薬剤師として患者さんから「この人に相談したら安心できる」と思ってもらえるようになることが目標の一つです。一方通行ではなく、患者さんの希望・心情に寄り添える薬剤師になれるよう、心がけています。また、患者さんだけでなく他の職種からも信頼されるように、日々の自己研鑽を続けていきたいと思っています。

※Protocol Based Pharmacotherapy Management



私にとっての兵庫医科大学とは

薬剤師を目指す上で様々な経験ができた場所です。大学病院というメリットから、早期に薬剤師としてチーム医療に携わることができ、医療者としての心構えを育む機会を与えてくれました。

薬剤師を目指す人へメッセージ

様々な医療現場において薬剤は必要不可欠なものであり、その専門職である薬剤師も重要な役割を担っています。薬剤師を目指す上で、日本の医療を支える一人になれるように、日々自己研鑽を積んでください。



Nurse

看護師

乾 彰弘

Inui Akihiro

兵庫医科大学病院 看護部
(兵庫医療大学※ 2012年卒)

※現：兵庫医科大学

INTERVIEW.3

希望を届ける看護を

同じ病いに悩む人に

TIMELINE

2006年

クローン病を発症し、
兵庫医科大学病院に入院する



2024年

病いと共に生きる人が
希望を見出す手助けを

2018年

炎症性腸疾患の患者さんのために
働きたいとの思いで大学院に進学



TURNING POINT

2006年

看護師を目指したきっかけ

高校2年生の時にクローン病を発症し兵庫医科大学病院に入院することになりました。不安も大きかったのですが、たくさんの医療者や患者さんと出会い、医療の仕事へ興味を持ちました。そんな中で、一人の看護師との出会いや、当時の病棟師長さんから「乾くん、看護師になりなさい」と言われたことが看護師を目指したきっかけです。病気になり未来に希望も持てず絶望していた時に、兵庫医大に入院してたくさんの人と出会い、看護師という生きる希望を見出してもらいました。おそらく、当院でなければ今の自分はなかったと思います。ちょうど兵庫医療大学（現：兵庫医科大学）の開学の時期で、入院中にそれを知って入学しようと決めました。また、病気になった自分に何ができるのか、この病気と関わり続けることで何か病気になった意味が見つけられるのではないかと思います。クローン病になったこと、そして兵庫医科大学病院に入院したことからすべてが始まったと思います。

2018年

大学院に進学

看護について改めて考える機会に

看護部に入職して6年経った頃、自身が行う看護に行き詰まりを感じていました。同時に自身のキャリアについて考えており、看護師を辞めようかとも悩んでいました。それでもやっぱり看護についてもっと知りたい、炎症性腸疾患の患者さんのために働きたいと思い、大学院への進学を決めました。大学院では看護を改めて考える機会となり、慢性疾患看護専門看

TURNING POINT

護師の取得に向けた勉強と炎症性腸疾患についての研究を行いました。

2024年～

同じ病気の経験を持つ

自分だからこそできる看護を

病いとともに生きる人の希望を見出すお手伝いができる医療人になりたいと思っています。そして、同じ病気を経験した私だからこそ、できることを見つけられるのではないかと思います。今後の目標は、炎症性腸疾患において日本でも有数の医療機関である兵庫医科大学病院の炎症性腸疾患に関わる看護の質をより向上させて行くことです。炎症性腸疾患看護という分野はまだ確立されていません。未来の患者さんのためにも、炎症性腸疾患看護の確立を目指し、また炎症性腸疾患を抱える方が生きやすくなる社会づくりに貢献できればと思っています。



私にとっての兵庫医科大学とは

今の私があるためには必要不可欠な存在です。おそらく兵庫医大に出会わなければ今とは全く違った人生となっていたでしょうし、病気とうまく付き合っていくことは難しかったかもしれません。看護の道を目指す原点であり、なくてはならない存在です。

看護師を目指す人へメッセージ

看護の力は無限大です。あなただからできる看護を見つけてください。患者さんが病気を抱えながらもより良い人生を送ることができるかどうか、看護の力は重要です。あなたの言葉が、行動が、患者さんの未来を変えることができるかもしれません。

Physical Therapist

理学療法士

三島 淳一

Mishima Junichi

兵庫医科大学病院 リハビリテーション技術部
(兵庫医科大学※ 2013年卒)

※現：兵庫医科大学

INTERVIEW.4

基本を大切にして
最適な治療を届ける

TIMELINE

2000年

サッカーを始める



2007年

高校時代の担任に
理学療法士の仕事を勧められる

2013年

新卒で入職と同時に
大学院へ進学する



2017年～

小児科の担当になる

2024年～

基本に忠実に一人ひとりの
生活を考えた治療に努める

TURNING POINT

2007年

理学療法士を目指したきっかけ

子どもの頃にサッカーを始め、怪我などで病院やクリニックなどが身近にありました。短い期間ではあるものの、リハビリテーションをしてもらった経験や高校時代に担任の先生から勧められたこともあって理学療法士を目指しました。現在、理学療法士として職務にあたっているきっかけは、すごく特別なことがあってというよりも周囲の環境によるところが大きかったと思います。

2013年

入職と進学を同時に経験したことが成長につながりました

人生の大きなターニングポイントは新卒で入職と同時に大学院へ進学したことです。右も左も分からない状態で一心不乱に日々自分ができることをこなし経験があったからこそ、その後大きく成長することが出来たと思います。大学院へ進学したことで自分のキャパシティを広げることができ、他の職場で働く先輩方が大学院生の立場では同期となったことも大きかったです。様々な考え方に触れることで刺激を得たり、様々な経験を共有できたりしたことが今も自分の土台となっています。もう一つ、結婚して子どもができたことも人生における大きな変化でした。ありがたかもしれませんが、仕事をする理由が自分の成長のためだけではなくたことが仕事というものをさらに深く考えるきっかけになったと感じます。

TURNING POINT

2017年～

小児科の担当となった当初の経験が今の考え方を支えています

2017年から小児科を担当しています。初めて担当した患者さんでうまくいかなかった経験が今でも自分の中で教訓として残っています。また、その苦い経験が患者さん・ご家族を含めた関わり方を強く意識するきっかけとなり、同じことを繰り返さないようにするにはどうするべきかを常に考えるようになりました。

2024年～

標準を更新し続けることで最適な治療を届けたい

臨床において大事にしていることは「基本を積み重ねる」ことです。かつて先進的だと言われたものが数年後には標準治療となるように、自分の中での基準を更新していくことが大切だと感じています。今後も患者さん一人ひとりの生活を考え、より良い治療の選択肢を提示できるように努めていきたいと考えています。そのため自分ができることを日々の臨床において

基本に忠実に
取り組み、着実に積み重ねていくことを
目標にしたい
と思います。



私にとっての兵庫医科大学とは

臨床、研究、教育を大事にしている場所で、自分が成長する上でも必要なものが多くある恵まれた環境だと感じています。

理学療法士を目指す人へメッセージ

自分だけでなく、家族や友達などの身近な人を含めた周りの人の生活にも目を向けてほしいと思います。また、自分が成長できる環境に身を置くことも大事なことだと思うので、その環境にもこだわってみてください。

Occupational Therapist

作業療法士

坂口 雄哉

Sakaguchi Yuya
兵庫医科大学 リハビリテーション学部
作業療学科 助教
(兵庫医科大学※ 2013年卒)

※現：兵庫医科大学

INTERVIEW.5

後輩たちのロールモデルに

研究を続けながら

TIMELINE

2008年

怪我をきっかけに
作業療法士の仕事に興味を持つ

2013年

卒業後も恩師から
自身の発表などについて指導を受ける



2024年

学生の思いを汲んで実現へと導ける
教員を目指す

2009年

大学入学、
恩師に出会う

TURNING
POINT

2017年

兵庫医大へ戻り、
教員の道に進むことを決意



2008年

作業療法士を目指したきっかけ

高校の部活中に膝を怪我し、リハビリテーションを受けました。受けていたのは理学療法でしたが、作業療法室から聞こえてくる作業療法士と患者さんの会話や笑い声、部屋に置かれた様々な治療物品がずっと気になっていました。ある日、担当の理学療法士の働きかけで作業療法の場面を見学させてもらえたことをきっかけに、治療に作業活動(日常生活活動、仕事、遊びなど)を用いる作業療法士の仕事に興味を持ちました。

2009~2017年

恩師との出会いが 今につながっています

大学入学時に出会った恩師の活躍は、卒業後も学会や研究会で目にするがあり、声をかけていただくことでモチベーションが高まりました。また、学会発表や論文執筆に関する指導をいただくこともあり、卒業後も兵庫医大の教員は私にとって身近な存在でした。

2017年

TURNING
POINT

大学院に通いながら母校の助手に

兵庫医療大学(現：兵庫医科大学)卒業後は神戸市立医療センター中央市民病院に就職。大学の恩師や職場の医師、先輩の助けを受けながら1年目から学会での症例発表に挑戦しました。3年目からはSCU(脳卒中ケアユニット)で勤務し、意識障害や認知機能障害、運動麻痺のある患者さんに関わりました。4年目から作

業療法の効果をより目に見える形で示したいという思いが強くなり、研究にも取り組んでいたところ、そのタイミングで恩師に「大学院に通いながら母校の助手として働いてみないか」と声をかけてもらい、教員の道に進むことを決意しました。SCUで業務にあたった経験から運動イメージを用いた治療法に関心を持ち、大学院での研究テーマとしました。たくさんの困難もありましたが、その度に恩師や周りの方に支えていただいたおかげで乗り越えることができました。

2024年~

成長し続ける医療人へ

現在は、心理面など数値に置き換えにくい作業療法の効果を脳波や心電図などの神経生理学的指標を用いて示す研究と並行して、バーチャルリアリティ(VR)の技術を活用した治療法の有効性の検証も進めています。臨床・研究・教育の各分野で様々な課題に挑戦し、粘り強く取り組み成長し続ける医療人であることが目標です。また、教員として、学生や卒業生達の「これをやりたい」「こうなりたい」という思いを育み、その目標を具体的に実現するための支援を行いたいと考えています。兵庫医大の教員であり、卒業生・修了生でもある私が学生や卒業生達の良いロールモデルとなれるよう、今後も自己研鑽を続けていきます。



私にとっての兵庫医科大学とは

「成長と挑戦を支援してくれる場」です。兵庫医大の恩師からの指導や大学の友人との学びを通じて作業療法士としての可能性を広げ、キャリアを形成することができました。私も兵庫医大の教員として、学生や卒業生たちの挑戦を支援し、共に成長していきたいです。

作業療法士を目指す人へメッセージ

最新の知識や技術を習得することは専門性を高めるために欠かせません。この努力は作業療法士としての職業的アイデンティティを形成し、仕事のやりがいやキャリアアップにつながります。新しいことに積極的に挑戦し、作業療法士としての未来と一緒に切り開きましょう。

CONTENTS

- 01 **特集** 兵庫医科大学から始まる
医療人のキャリアパス
- 12 NEWS & TOPICS
- 19 OUR CREW
～兵医メンバーのEMPOWER EPISODE～
移植チームと患者さんに寄り添い、
看護の領域を超えたサポートを
兵庫医科大学病院 血液内科／看護部
学会認定専門造血細胞移植コーディネーター
川口 真理子
- 21 HYO-i LAB 研究紹介
丹波市山南町を再び葉草の一大産地に
当帰葉による血行改善と地域振興
兵庫医科大学 薬学部 医療薬学科 物理系薬学分野
教授 前田 初男
非常勤講師 石崎 真紀子
- 23 法人からのお知らせ
2024年度 科学研究費助成事業 交付状況一覧
- 24 兵庫医科大学 開学50周年記念事業募金 状況報告／
新病院棟建設だより
- 25 キャンパス通信 神戸キャンパス／篠山キャンパス
- 26 キャンパス通信 梅田キャンパス／
わたしをEMPOWERするもの



emol株式会社と、強迫症と社交不安症の 疾患啓発を目的とした無料アプリ「フアシル」をリリース

精神科神経科学は、精神疾患向け治療用アプリの開発を行うemol株式会社と、強迫症の疾患啓発を目的とした無料アプリ『フアシル-O ～強迫について学ぶ～』をリリースしました。また、emol株式会社および東北学院大学 人間科学部と共同で、社会不安症の疾患啓発を目的とした無料アプリ『フアシル-S ～人見知りを乗り越える～』をリリースしました。これらのアプリを利用することで精神疾患に対する理解が深まり、早期の発見や受診が促進され、さらには重症化の防止に貢献できることを目指しています。



株式会社エイチ・アイから医療機器などの寄贈

株式会社エイチ・アイから、本法人に医療機器や事務機器などが寄贈されました。8月27日には法人と大学で、9月9日にはささやま医療センターで、9月19日には大学病院で、それぞれ寄贈式が執り行われ、各責任者に目録が贈呈されました。

<寄贈物品一覧>

兵庫医科大学	折りたたみ診察台★	6点
	手技訓練シュミレータ	4点
兵庫医科大学病院	点滴作業台	1点
	車いす	2点
	ハイローストレッチャー	1点
	酸素ボンベホルダー	1点
	臨床検知装置(★内2点)	4点
	車いす付属品	6点
ささやま医療センター	車いす	2点
	ラベルプリンタ	1点
	手洗いチェッカー	1点
	タブレット収納キャビネット	1点
	USB充電器	1点
学校法人兵庫医科大学	タブレット端末	2点
	シュレッダー	1点

★は有限会社エイチ・アイ・サービスからの寄贈



学校法人兵庫医科大学 寄贈式



兵庫医科大学 寄贈式



兵庫医科大学病院 寄贈式



ささやま医療センター 寄贈式



大学病院改革プランを策定

2024年4月より、医師の働き方改革に伴う時間外・休日労働の上限規制が開始され教育・研究に従事する時間が減少した場合の我が国における医学・医療の充実・発展の阻害が懸念されています。大学病院においては、働き方改革推進と大学病院の役割・機能（教育・研究・診療）の維持を両立させ、更には地域社会へ貢献すべく、持続可能な経営基盤の確立に向けて取り組むことが求められています。当院は、文部科学省が策定した大学病院改革ガイドラインに基づき、2024年度～2029年度までの6年間に取り組む内容を大学病院改革プランとして策定いたしました。詳しくは当院ホームページにてご確認ください。



第28回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞を受賞

薬学部 臨床薬学分野 宮本 朋佳 助教が、「日本薬理学会」より 第28回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞を受賞しました。

論題: Estrogen decline is a risk factor for paclitaxel-induced peripheral neuropathy: Clinical evidence supported by a preclinical study



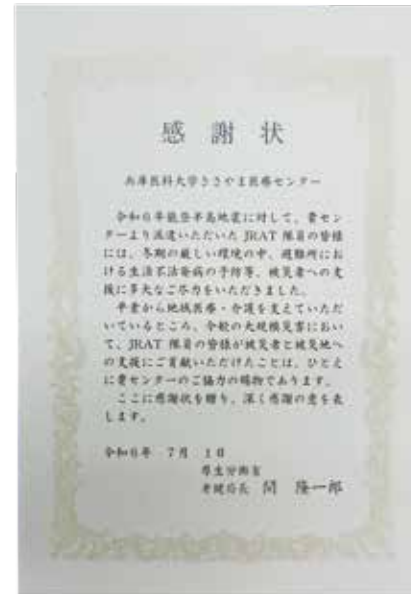
多職種連携総合臨床実習を西宮本院で実施

学部・職種の垣根を超えたIPE(多職種連携教育)を発展させるための1つである4学部合同の「多職種連携総合臨床実習」を、2024年度からは篠山キャンパスに加えて西宮本院の内科系診療科でも実施しました。医学部・薬学部の5年生、看護学部・リハビリテーション学部の4年生が実際に患者さんに問診を行いながら、多職種でのグループディスカッション等をとおして入院治療計画や退院支援を考え、最終日にはグループごとにプレゼンテーションを実施し、修了証が授与されました。



厚労省よりささやま医療センターの理学療法士へ能登半島地震のJRAT派遣活動に対し感謝状を贈呈

ささやま医療センター リハビリテーション室の岡前 暁生 課長が、令和6年能登半島地震被災地へのJRAT(一般社団法人 日本災害リハビリテーション支援協会)隊員として2024年2月25日～29日にかけて金沢市内に派遣され、同市内の1.5次避難所において元の避難所では生活が困難になった方に対してリハビリを行いました。この活動に対し、厚生労働省から感謝状が贈られました。



世界初、上部消化管外科にてAI視覚支援手術を実施

上部消化管外科 篠原 尚 主任教授は、人工知能(AI)システム「Eureka α (ユーリカアルファ)」を使用した手術に世界で初めて成功しました。アナウト株式会社が開発した「Eureka α 」は結合組織と呼ばれる細い線維構造を自動認識し、画面上に着色して表示することのできるAIです。車の運転で言えば道路に相当する剥離の“道”を術者に示すことによって、外科医はより確実に操作を行えるようになります。篠原教授はこのシステムを「結合組織に加えて、開発段階にある神経や臓器といったさまざまな構造の自動認識が追加されれば、更に価値が高まるだろう」と評価し、臨床現場にもたらされる今後の効果に期待を寄せています。

